

## 05. TOKYO LIGHTS 銀座・京橋・日本橋/ 中央通り照明デザイン国際競技

### 1. 事例の特徴

本設計競技は、道路照明灯のみのデザイン選定を公開の国際設計競技という形式で行われたものである。これは国内では他に例がなく、デザイン界のみならず、一般市民からも注目を集めた極めて画期的な取り組みであった。審査プロセスも全て公開され、二次選考に残った作品の一般投票も行われ、市民賞も設定されるなど、土木工作物の選定、設計の概念を大きく変えた設計競技といえる。

### 2. 業務諸元

#### 2-1. 業務概要

##### (1) 事業内容

銀座・京橋・日本橋と連なる中央通り(一般国道15号他、銀座8丁目~日本橋室町3丁目交差点、延長 L=2.9 km)は、江戸時代から東海道の起点となり、明治以降は近代化をリードする国際的な都市の街並みとして発展してきた。中央通りの道路照明灯は、明治5(1872)年に全国に先駆けてガス灯として設置されて以来、日本が世界に誇る都市景観のシンボルの役割を果たしてきた。

コンペ実施前の道路照明灯は、中央通りの雰囲気と調和した格調高いデザインを採用して昭和43(1968)年に設置されたものであった。しかしながら、設置以来38年が経過し、これら道路照明灯は旧建設省通達で求められた現行の耐風基準に適応できておらず、安全面でリニューアルの必要が生じていた。一方、時代は21世紀を迎え、「美しい国づくり」の重要性が問われ、景観への社会的関心が高まるなか、中央通り沿線地域は道路と都市の景観づくりにおいても最先端の活動を展開していた。

道路照明灯は街並みの価値を高める、優れた景観のパートナーであり、その観点から、今回リニューアルする道路照明灯は、日本を代表する街路である中央通りにおいて、道路照明灯と景観のあり方に、新しいモデルを提示することを目指し、地域の歴史と文化を支えてきた地元の方々の参加も得て事業を進めるものとされた。この新たな日本の都市景観のシンボルを、世界の多様な分野の才能の積極的な参加を得て実現するために、国際コンペティションを開催することとし、国内・海外に呼びかけ、照明デザイン、都市・建築・土木デザイン、プロダクトデザイン、アートなどをはじめ様々な分野の方々のクリエイティビティあふれる道路照明灯のデザインを公募した。平成22(2010)年に竣工した。

##### (2) 業務内容

##### 1) 設計競技の趣旨

日本を代表する3地域(銀座、京橋、日本橋)にふさわしい品格と魅力を持ち、21世紀の中央通りの象徴的存在となりうる「光のデザイン」を具現化する道路照明灯としてのデザインを求めることとした。具体的には以下の3つの点を満たす提案を求めた。

・常に時代の先端を歩んできた、銀座・京橋・日本橋の歴

史と文化を踏まえ、中央通りの街道としての統一感を保つことの出来るデザイン。

- ・21世紀に求められる、エコロジー、バリアフリー、セキュリティ、エンターテイメントなどの都市機能についても考慮し、未来へとつながるコンセプトやストーリーを重視したデザイン。
- ・日本の歴史・文化の中心地として世界に誇る街並みや美しい都市景観を引き立たせることの出来るデザイン。

##### 2) 主催者

TOKYO LIGHTS 銀座・京橋・日本橋/中央通り照明デザイン国際競技実行委員会

(国土交通省、東京都、中央区、銀座通連合会、京橋一之部連合町会、東京中央大通会、「日本橋」保存会、特定非営利活動法人「はな街道」)

##### 3) 調達方式

設計競技方式(アイデア公募型をカスタマイズ)

##### 4) 選定スケジュール

- ・一次選考  
応募登録受付:平成18年6月15日~7月20日  
作品提出受付:平成18年6月15日~8月25日  
二次選考会5作品を選出:平成18年10月下旬
- ・二次選考  
公開展示および一般投票  
:平成18年10月29日~11月5日  
最終選考会 :平成18年11月17日

##### 5) 応募総数

応募登録数は世界29カ国から1,181件(うち国内953件、海外228件)あり、作品提出数は世界18カ国から280作品(うち国内227作品、海外53作品)。

最優秀賞1作品、優秀賞1作品、佳作3作品及び一般投票の上位1位作品を市民賞として選定した。

##### 6) 最優秀提案者

公立大学法人 前橋工科大学工学部 総合デザイン工学科 松井淳教授と桜沢拓也氏の作品『FOUR S FOR S』

### 2-2. 審査

#### (1) 審査方法

- 1) 一次選考 約10作品を選出。
- 2) 二次選考(平成18年10月下旬) 5作品を選出。
- 3) 公開展示・一般投票(同年10月29日~11月5日)  
5作品を展示及びホームページで公開し、一般投票で「市民賞」を選出
- 4) 最終選考会(同年11月17日)  
最終選考会エントリー5作品について公開プレゼンテーションおよび質疑応答形式で最終選考を行い、各賞を決定

## (2) 審査委員構成

委員名	所属・役職名
中村 良夫	東京工業大学名誉教授 (審査委員長)
森山 明子	武蔵野美術大学教授 (副委員長)
遠藤 彬	銀座通連合会理事長
倉田 直道	工学院大学教授
小柳 重隆	東京中央大通会会長
島田 紀夫	ブリヂストン美術館館長
竹内誠	江戸東京博物館館長
田中寛志	田中寛志デザイン事務所代表
たほりつこ	東京藝術大学教授
馬場璋造	株式会社建築情報システム研究所代表取締役
平手小太郎	東京大学助教授
細田安兵衛	名橋「日本橋」保存会副会長、特定非営利活動法人「はな街道」理事長

(ただし、委員は 50 音順、敬称略)

## (3) 審査結果の公開

最優秀提案者は、選考後のシンポジウム(12月6日開催)でプレゼンテーションを実施し、ホームページ等で審査結果を公開した(二次選考会対象作品含む)。

### 2-3. 応募条件と設計条件

#### (1) 応募条件

照明デザイン、建築・都市・土木デザイン、プロダクトデザインなどデザインの各分野で活動している、またはこれを楽しんでいる個人やチーム。

#### (2) 提出書類

- ・提案主旨説明書 A3 用紙、タテ使い、1 枚
- ・設計図書 A1 スチレンボードでパネル化、タテ使い、1 枚に下記①～⑤の内容を記載
  - ①道路照明灯の図面と仕様：寸法の入った平面図・正面図・側面図、スケッチ、材質・表面仕上、その他照明灯の製作費が判断できる仕様
  - ②標準エリア(ホームページの募集要項類参照)における道路照明灯の配置が分かる図面
  - ③銀座、京橋、日本橋各地区の設置後の景観が分かるイラスト・CG 等
  - ④光の様子が分かるデータ等(光源の種類、演色性、色温度など)
  - ⑤その他、提案内容の理解に必要なもの
- ・設計図書の縮小複製 A3 用紙 1 枚

### 2-4. その他の特記事項

#### (1) 賞金、最優秀提案者に与えられた権利

- ・最優秀賞(1 作品)500 万円、賞状(製作図監修費 300 万円含む)
- ・優秀賞(1 作品)50 万円、賞状
- ・佳作(3 作品)20 万円、賞状
- ・市民賞(1 作品程度)記念品、賞状
- ・製作図監修費：今回の競技で提案される図面に基づき、製造・施工業者に製造・施工を発注するための製作図

の作成作業を監修。

## (2) その他、権利の保護など

「デザイナーの権利の取り扱い」に関しては「著作者人格権」=氏名表示権(著作物に自分の氏名を表示する権利)、公表権(自身の作品を公表して世に出すか決定する権利)、同一性保持権(作者の意に反して作品又は作品名に改変を加えられない権利)は必ず保護される(移転できない)権利であることを認識しながら作業が進められた。(注:著作者人格権は著作者に帰属する一身専属的な権利であるが、その行使は制限される場合が多い。)

### 2-5. 参考資料

- 1) 銀座・京橋・日本橋/中央通り照明デザイン国際競技募集要項(銀座・京橋・日本橋/中央通り照明デザイン国際競技実行委員会、2006.6)
- 2) 銀座・京橋・日本橋/中央通り照明デザイン国際競技

## 3. 事例解説

### 3-1. 実施のねらいと成果

#### (1) 実施を決定した背景と要因

東京の中央通り(一般国道 15 号他、銀座8丁目～日本橋室町3丁目交差点、延長 L=2.9 km)の道路照明灯は、ガス灯をイメージしたデザインが取り入れられ、通りの雰囲気と調和し、永い間、地元をはじめ日本の多くの方々に親しまれてきた。

しかしながら、設置から既に 39 年が経過し、現行の耐風基準に適合できておらず、また老朽化が進んでおり、平成 17 年夏には 7 基を緊急的に同型で建て替えを実施するなど、早急にリニューアルする必要性が生じていた。この照明灯を更新するため平成 18 年 6 月より実行委員会「銀座・京橋・日本橋/中央通り照明デザイン国際競技(TOKYO LIGHTS)」を組織し、国内はもとより世界の多様な才能の積極的なデザイン提案を得ることとして、世界に向けて競技への公募を行うことにより、新しい照明デザインの策定の作業が進められた。

#### (2) 設計競技方式の選定の経緯、ねらい

更新にあたっては、『日本を代表する 3 地域(銀座、京橋、日本橋)にふさわしい品格と魅力を持ち、21 世紀の中央通りの象徴的存在となりうる道路照明灯』とするため、地元の方々の積極的な参加を得ながら実行委員会を組織し、国内はもとより世界から素晴らしいデザイン提案を求めることとした。

### 3-2. 実施上の知見、工夫点

#### (1) 実施運営事務局の体制づくり

東京国道事務所では、現在の照明灯を更新するため平成 18 年 6 月より実行委員会「銀座・京橋・日本橋/中央通り照明デザイン国際競技(TOKYO LIGHTS)」を組織し、国内はもとより世界の多様な才能の積極的なデザイン提案を得ることとして、世界に向けて競技への公募を行うことにより、新しい照明デザインの策定の作業を進めた。

## (2) 応募作品の取り扱い

「作品の類似性のチェック」では、審査の段階で最優秀作品が既存のものと同様性を指摘されると問題が発生するため、国内だけでなく海外を含めてチェックする必要があり、特許庁の検索システム、海外の関連資料、メーカーカタログ等から確認作業を実施した。

また審査員より、「デザイナーの権利の取り扱い」「作品の類似性のチェック」「審査の公平性の確保」などの指導を受けた。

## (3) フィージビリティ・スタディの実施

これまでの実績から対象区間(銀座8丁目～日本橋室町4丁目)2.9kmの整備費の総額は、6.5億円を目安とした。「整備費」は道路照明灯の製作から現地設置(基礎工事含む)までの費用とした。参考金額は以下の通り。

- ・現状と同じものを製作し設置する場合(高さ:7m)2,000千円/本、設置数:241基、概算整備費:約5億円
- ・一般的な道路照明灯を製作し設置する場合(高さ:10～12m程度)概算整備費:2,000～2,800千円/本

## (4) 作品の募集と広報

世界へ向けた情報発信として、インターネットを活用し、二カ国語(英語,日本語)を用いた実行委員会『TOKYO LIGHTS』のウェブページを立ち上げた。これにより、世界に向けた情報提供と国際競技の参加窓口、各種イベントとの連携や、一般の方が審査に参加出来るホームページ投票など、総合的な情報提供を行った。また、実行委員会の主催として、地元の方々に参加して頂くこと、照明やデザイン関係の学会や団体等14団体に本国際競技の後援団体になってもらい、地域の人々から専門家まで広く情報提供が出来た。

また、日本の学会誌、専門誌、海外の知名度のある専門誌に広告を掲載するとともに、ポスター・チラシを活用しデザイン関係の大学、団体等へ配布する等の種々の手法を用い広く広報を行った。この結果が280作品(うち海外提出53作品)の提出に結びついた。

## 3-3. 審査上の知見、工夫点

### (1) 審査基準の作成、要求事項の設定

#### 1) 道路照明灯の灯具部分の高さ

- ・車道側 灯具等の下端 4.5m以上、灯具の光源の中心部分の高さ12m以下(現状は6.5m)
- ・歩道側 灯具等の下端 2.5m以上、灯具の光源の中心部分の高さ12m以下(現状は6.5m)

灯具等: 灯具を取り付けるアームも含む(アームの上部に灯具が設置される場合は、アームの下端が高さ制限の対象になる)。

#### 2) 設置場所

- ・歩道(道路管理用地内)に納まるもの
- ・設置間隔は自由(現状は20m間隔)

次の4つの条件は、性能や費用を証明する計算結果等の提出は必要ないが、審査の判断要素とした。また、実施案に選定された場合は、これらの条件を満たすように協議を予定していた。

## 3) 道路面の明るさ

- ・平均路面輝度(平均照度/平均照度換算係数)1.0cd/m<sup>2</sup>以上、平均照度換算係数は15(lx/cd/m<sup>2</sup>)を見込む
- ・輝度均斉度(最小路面輝度/平均路面輝度)0.4以上
- ・保守率は0.65を見込む

これらの基準は、社団法人日本道路協会発行「道路照明施設設置基準・同解説(1981年)」に基づいている。

## 4) 道路照明灯の強度

- ・風速60m/秒の風に耐えるもの

この基準は、社団法人日本道路協会発行の「道路照明施設設置基準・同解説(1981年)」に基づいている。

## 5) 歩行者等への配慮

- ・道路照明灯の脚部については通過者の安全を考慮(ボルトやリブを出さないなど)。

## (2) 審査員の選定

審査委員長に中村良夫(東京工業大学名誉教授)、副審査委員長に森山明子(武蔵野美術大学教授)を配し、審査における都市景観に対する知見を確保した。

## (3) 審査における透明性の確保、市民参加

透明性、公平性を保つため、応募者に関する情報は、審査員に分からないようにする必要があり、関係者でも特定の者に限った。

また、それぞれ個性のある3地区の照明灯更新であり、地域の方々の意見を十分に反映させるため、地元代表者の方を委員として迎えることによって、各地区への説明、地元イベントとの連携、地元に向けた広報資料の作成など配慮した。

## 3-4. 選定後の事業実施上の知見、工夫点

### (1) 事業実施上の知見、工夫点

新しい照明灯の実現に向け、3地区の意見を調整する場を設け、試作品によりデザインを地元の方々に体感してもらうなどの方法を用いて調整した。

### (2) 設計、施工の発注

- ・最優秀賞受賞作品による製作図の作成は、別途国土交通省が指定する事業者が実施し、最優秀提案者には監修を依頼した。製作図作成・監修の期間は最優秀賞決定後の2006年11月20日から12月20日までと、監修費は副賞に含むものとした。
- ・監修に伴う交通費または旅費は代表者1名分を別途支給。金額は、国土交通省規定に準じるものとし、契約時に決定した。
- ・製作図作成の過程等で、実現性等に重大な問題が発生した場合は、他の入賞作を実施案とする場合もあるが、その場合は最優秀賞副賞の監修費分は実施案提案者に支払うものとした。

## 4. まとめと課題

### 4-1. 審査結果概要

国内外に向けた情報発信を行ってきた結果、ホームページでは6月15日の公募開始から12月6日のシンポジウム・表彰式までの約6ヶ月間で263,271件のアクセスがあった。

国際競技への応募登録数は世界29カ国から1,181件(うち国内953件、海外228件)あり、作品提出数は世界18カ国から280作品(うち国内227作品、海外53作品)と多くのデザイン提案が得られた。

これらの提案から1次選考、2次選考、公開展示・一般投票、公開プレゼンテーションを経て最終選考を行い前橋工科大学・松井淳助教授と桜沢拓也氏の作品「FOUR S FOR S」が最優秀賞として選考された。

この他、優秀賞1作品、佳作3作品及び一般投票の上位1作品が市民賞として選定された。

#### 4-2.設計競技への参加経緯、参加のメリット

最優秀賞を獲得した前橋工科大学(群馬県前橋市)の松井教授(当時助教授)に意見聴取し、以下に示す。

松井教授は前橋工科大学で教鞭を採っているが、前橋市の中心市街地の再生について約20年ほど関わってきたが、行政はソフト事業を優先することが多く、具体的成果をなかなか挙げることができていなかったという。まちづくりを促進するためには、ハードによる物理的・視覚的表現を具体化する必要を感じていた折り、当該コンペの情報を知り、参加することにした。設計競技において「選ばれる」ためには、審査員に対して、自分たちの提案をいかに深く理解してもらえるかが重要で、設計競技は、その理解の深度のための表現を競い合う場と捉えていた。

東京の中心的商業地の景観を変化させたいという気持ちもあり、当該コンペに参加したが、メリットについて挙げるならば、「他流試合の機会を得た」とことであるということである。募集要項では具体的に詳細な設計条件が示されており、設計競技に際し、提案技術的解決案をもって挑む必要があると強く感じたという。

松井教授は、審査委員の方々が、設計競技後も製作推進協議会の委員として完成まで見守っていただいたことが実現に向けての力になったという。

土木・景観デザインはその規模に従って、時間的・工費的に膨大なエネルギーが注がれるため、完成までの設計・製造・施工の各プロセスにおいて、広範に渡る検証と確認を求められていることと、その必要性を強く実感したが、質の高い景観づくりを目指すためには、今後も設計競技が増えることが望ましい、とした。

(執筆担当:須田 武憲)



図1 デザイン・コンセプトパネル